

別紙3-1 令和4年度スマートシティ関連事業応募様式

1. 申請者情報

共通

1

申請者	企業・団体名	三重県いなべ市
	代表者役職・氏名	いなべ市 市長 日沖 靖(ひおき やすし)
	所在地	三重県いなべ市北勢町阿下喜31番地
連絡担当窓口		
	所属(部署名)	いなべ市役所 福祉部 長寿福祉課
	電話番号 (代表・直通)	0594-86-7819

2. スマートシティ関連事業への応募状況【申請者名：三重県いなべ市】

共通

2

【応募事業】 ※応募しない事業の行は削除すること

内閣府「未来技術社会実装事業」	事業名	健康で元気な高齢者！！誰一人取り残されないデジタル社会の実現 ～高齢者が自然とデジタルを活用できる環境の構築～
	実施団体名	三重県いなべ市

【関連事業応募・採択状況】 該当する事業に○をつけること

今年度応募する事業	過去の採択事業					
	R4	R3	R2	R1	H30	H29
内閣府「未来技術社会実装事業」	○					X
総務省「地域課題解決のためのスマートシティ推進事業」※1						
経済産業省「地域新MaaS創出推進事業」					X	X
国土交通省「日本版MaaS推進・支援事業」※2					X	X
国土交通省「スマートシティ実装化支援事業」※3					X	X

※1：施策名は、平成29年度～令和2年度「データ利活用型スマートシティ推進事業」、令和3年度「データ連携促進型スマートシティ推進事業」

※2：令和元年度の施策名は「新モビリティサービス推進事業」

※3：令和元～3年度「スマートシティモデルプロジェクト」

■ 合同審査評価ポイントへの反映状況

事業毎の評価基準のほか、合同審査会では、以下のポイント进行评估する。

該当する項目に○をつけること

合同審査評価ポイント	○
①合計2事業以上のスマートシティ関連事業に今年度応募している案件、又は過去に採択された事業に係る案件であること	
②新規性があり、先進的であること	○
③データ連携基盤（都市OS）を構築している案件、又は構築予定の案件	○
④作成するAPIを公開又は公開予定の案件 （応募者がHPにAPI公開すると共に、スマートシティ官民連携PFサイト上にそのURLを公開すること）	

- ②高齢者のデジタル活用が難しい課題である中、顔認証技術を活用したスマホに依存しない施策の実装を計画している。また、デイケアセンターを核として、高齢者のデジタル活用を促進し、高齢者がVRやメタバースなどの先端技術を自然と活用できる環境（高齢者も使える仕組みの構築、かつ教育）の実施を予定している。
- ③医療、ヘルスケアだけでなく、移動、生活支援（買い物）など、複合的なサービス実装を視野に入れており、その取り組みを活かすために、都市OS、データ連携基盤の整備を、3年以内実施することを目指している。

■ 事業のセールスポイント

- 高齢者が自然とデジタルを活用し、データを活用する生活環境の構築
- 未来技術を活用し、健康で元気な高齢者づくりを展開。将来的な保険給付抑制社会の実現（誰一人取り残されないデジタル社会の実現）

位置図



狙い① 実フィールドに高齢者拠点を創出、健康管理、生活支援を実現

- ・ AIオンデマンド、乗り合い等による送迎整備
- ・ 拠点や地域を活用して、健康管理、生活支援などを提供
 - － 【健康管理】 体組成計等を活用（顔認証導入、データ連携基盤を活用したPHRの推進）
 - － 【生活支援】 買い物等の支援（運動を兼ねた買い物、デジタル通貨・ECサイト活用）

狙い① 実フィールドの高齢者拠点の創出

※2022年度改修予定



狙い② 実フィールドとデジタルの併用

■ 対象区域の概要

対象地域：市全域
面積：219.83㎡
人口：44,973人（2020年）
高齢化率：約27%（2020年）

■ 対象区域のビジョン

いなべ市民やいなべ市を訪れた人に『いなべ市は本当に“いなべ！”』と実感していただけるように、いなべブランドといわれる先進的な行政サービスを創造し、提供し続けることで、ひとままも元気な活力あふれるまちをめざしている

基本姿勢

行政サービスの質の向上に向けて
創意工夫(挑戦)し続ける

狙い② デジタルによる高齢者の見守りネットワークの構築

- ・ デジタルを活用した高齢者の健康管理、生活支援に加え、見守りサービスの構築
 - － 【健康管理】 VR、eスポーツを活用した運動支援、リハビリ、メタバースクリニック
 - － 【生活支援】 メタバースによるバーチャル空間での買い物、交流
 - － 【見守りサービス】 GPS機能、web通信を活用した安否、位置確認、PHR等の情報共有

4. 概要【申請者名：三重県いなべ市】

共通

4

■ 事業のセールスポイント

▶ いなべ市ふじわらディサービスセンターを高齢者拠点とし、実フィールドとデジタルを併用した「移動支援」「健康管理」「生活支援」「見守りサービス」を実施。



4. 概要【申請者名：三重県いなべ市】

共通

4

- 通いの場を実フィールドに、デジタルを活用した健康管理、生活支援サービスを提供。
- 顔認証などの技術を使い、フレイル、プレフレイル等を含む高齢者が自然とデジタルを活用し、自宅など市域全体でデジタルを活用した高齢者の見守りネットワーク、健康管理、生活支援を実現。→介護予防の実現（要介護状態の発生をできる限り防ぐ）等を目指す。



4. 概要【申請者名：三重県いなべ市】

実フィールドとデジタルを併用した健康管理、生活支援
(誰一人取り残されないデジタル社会の実現)

顔認証機能によりスマホ不要なデジタル社会を目指す

※オプトインが基本



健康管理

生活支援

1ST: 体組成計、フレイル健診等を活用し、健康データの収集 (実フィールドが主)

- ▼体組成計等で取得される健康データ等を蓄積



1ST: 周辺施設で買い物兼運動 (リハビリ) (実フィールドが主)

- ▼運動やリハビリ履歴をデータとして蓄積



一部デジタルの併用

2ND: 適宜、オンライン診療・健康相談を実施

- ▼高齢者拠点と医療施設を通信でつなぎオンライン診療



一部デジタルの併用

2ND: 専用ECサイト、デジタル通貨などで地元商店からの買い物を支援

- ▼アバター等の支援によるECサイトでの買い物



更なるデジタルの併用

3RD: メタバースの活用

- ▼バーチャル商店街による買い物
- ▼ゲーミフィケーションを活用した認知症・リハビリ活用
- ▼メタバースクリニック
メンタル・大人の保健室
かかりつけ医への健康相談から専門医の診断まで

高齢者から、全市民への展開



■ 地域の課題

地域全体の課題

- R2年度におけるいなべ市の人口の約45,000人のうち65歳以上の高齢者は約12,000人。
- 人口の伸び率を見ると、65歳以上の高齢者は増加傾向にありH12年度比と比較しR2年度で1.4倍、一方、他の年代は減少・横ばい傾向にある。
- その結果、いなべ市の1人当たりの医療費は増加傾向にあり、三重県平均と比較しても高い。
- 今後、増加する高齢者が健康で元気に外出できる地域、また地域が見守れる環境の創出が必要。

解決を目指す課題：高齢者の健康管理（医療費の抑制）

- 今後更なる高齢者の増加が予測され、医療費の増加も懸念されるため、高齢者の健康管理による医療費の抑制を図る。

解決を目指す課題：元気な高齢者づくり

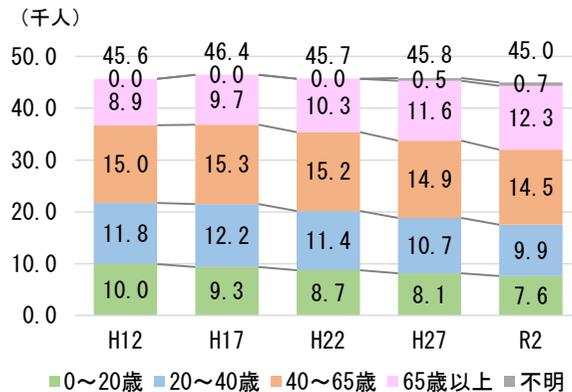
- 高齢者の生活の質の向上させ、高齢者が住みやすい環境を構築し、元気な高齢者づくりを図り、医療費の抑制を図る。

解決を目指す課題：移動手段の高度化

- 健康で元気な高齢者づくりのため、高齢者拠点や商業施設への移動に関して、高齢者が使いやすい移動手段を構築する。

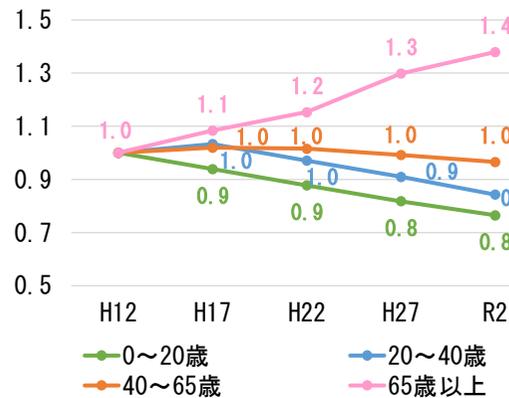
解決を目指す課題：高齢者の見守り環境の構築

- マンパワーで高齢者の見守りを実施しているが、今後増加する高齢者に対応するため、効率的な見守り環境を構築する。



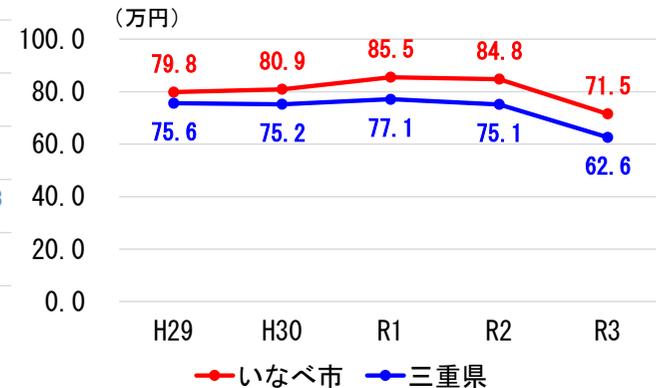
出典：国勢調査

▲いなべ市人口推移（年齢別）



出典：国勢調査

▲いなべ市人口伸び率（年齢別）



出典：三重県国保連合会ヘルスサポートシステム

▲1人当たりの医療費

■ スマートシティの目標(KPI)

➤ 施策実施により、健康増進を促進し、少子高齢化に伴う高齢者向けにかかる各自治体負担の軽減させ、元気あふれるまちを実現させる。

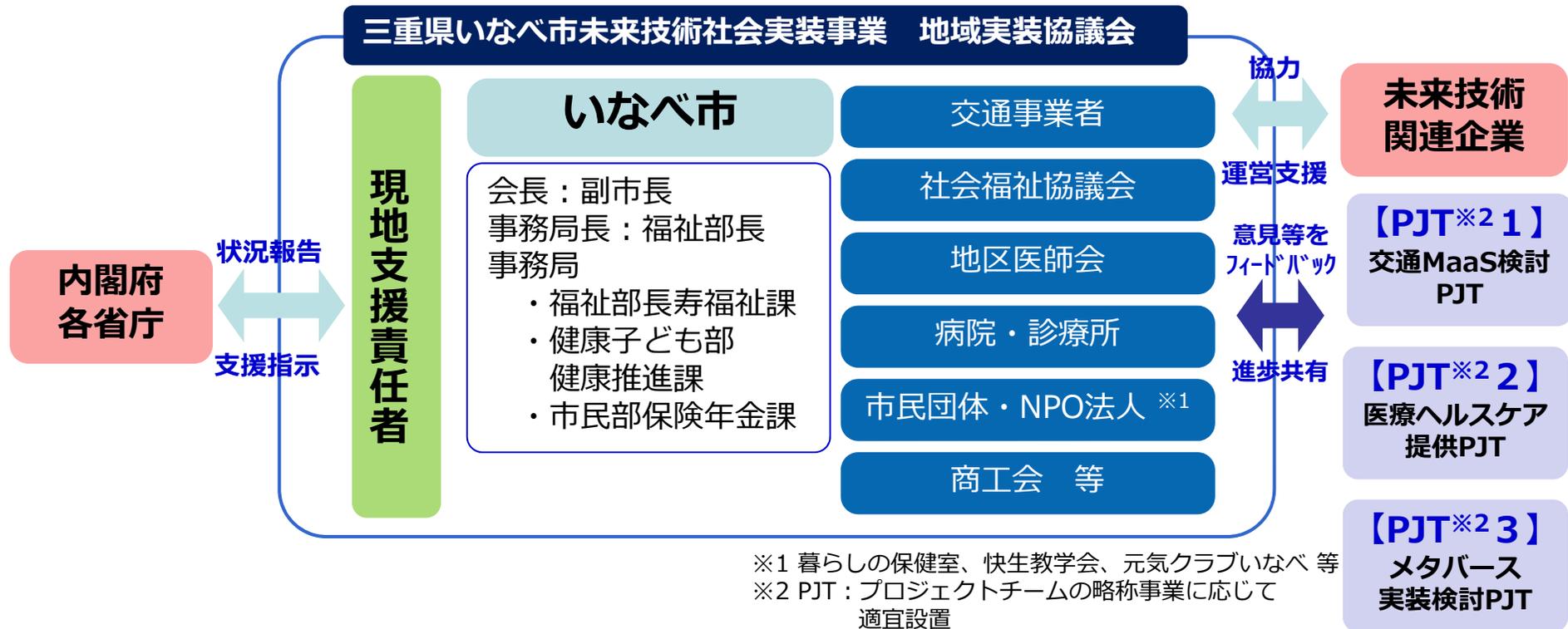
目標		考え方
①	高齢者の外出機会創出	運行効率化により、「施設・自治体の運行負担軽減」「利用者数の増加」「利用者満足度の向上」を実現させ、高齢者の外出機会（特に高齢者拠点や商業施設への移動）の向上を図る。
②	・高齢者の健診受診率 ・1人あたりの医療費	健康な高齢者づくり、病気の予防措置・早期発見等により一人あたりの医療費の抑制を図るため健康診断の受診率の向上を図る【2020年度：約46%→2026年度：約60%】。 →最終的には一人あたりの医療費を三重県平均と同程度を目指す。※数字は前頁参照。
③	・高齢者の生活の質向上 ・健康増進 ・地元商店の売上向上	健康増進を兼ねた生活支援策の実施により、運動等を通じて要介護認定者を抑制するとともに、LDLや中性脂肪等の受診勧奨判定値の該当者の増加の抑制を図る。 【要介護認定者 2020年度：約2,010人→2026年度：現状維持(増加を抑制)】 地元商店活用による買物支援策により、地域の消費を高め、地域経済を活性化を図る。
④	高齢者の安否確認向上	高齢者を見守りしやすい環境を構築し、高齢者一人当たりの安否確認回数の向上を図る。



分野	施策	見込む効果（アウトカム）	評価指標（案）
モビリティ	AIオンデマンド、乗り合い送迎 ⇒既存公共交通の活用含む ユニバーサルMaaSの構築	運行効率向上（採算、負担軽減） 利便性向上・満足度向上 （利用者数増・外出機会創出）	施設・自治体の運行負担額 利用者数（外出数） 移動時間
健康	健康データ活用（体組成計、検診） オンライン診療、健康相談実施 メタバース活用（クリニック、運動支援）	健康意識の変化 地域の医療環境改善 医療費の負担額軽減	検診受診率 一人当たりの医療費 要介護認定者数、受診勧奨者数
生活支援	運動を兼ねた買い物支援（歩行訓練） 専用ECサイト・バーチャル商店街構築 （地元商店活用・デジタル地域通貨導入）	健康増進・機能回復 生活の質・生きがい向上 地元商店の売上向上	要介護認定者数 LDL・中性脂肪等の受診勧奨者数 商業統計
見守り	通信技術を活用した安否確認 位置情報、医療情報等の情報共有	安否確認の負担軽減 対象人数、回数の増加	見守り施策にかかる自治体負担額 安否確認人数・回数

■ 運営体制

- 行政、市内事業者、県内外の未来技術関連企業が一体となって本事業を推進
- 協議会で事業全般の管理統括を行い、適宜プロジェクトチームを作り、詳細を検討



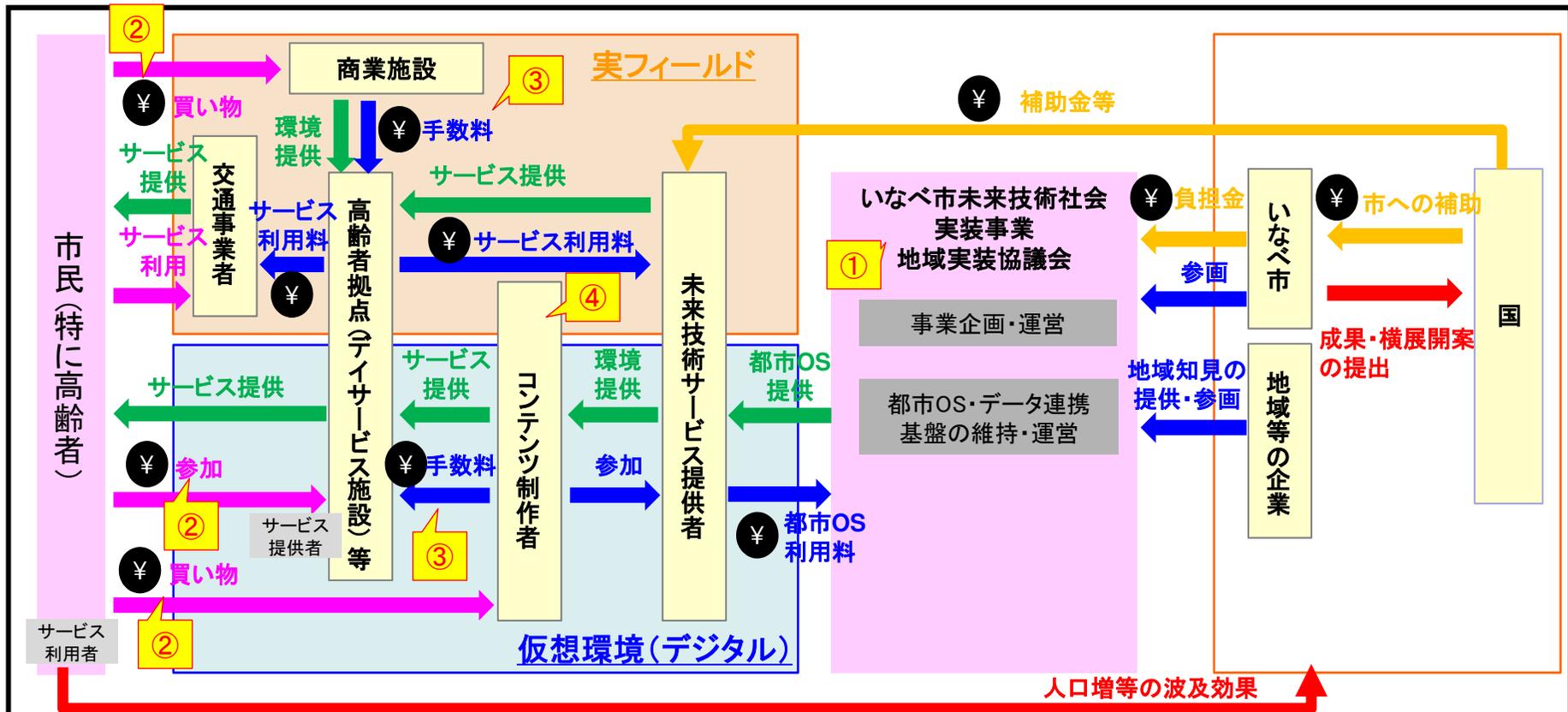
	名称	役割及び責任
1	いなべ市	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の立案 ・事業全般の管理・統括業務
2	市内事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会への参加、事業実施
3	未来技術関連企業	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会への参加または支援 ・各種ノウハウの提供 事業参画

未来技術関連企業（候補）
 岐阜ダイハツ販売株式会社
 株式会社ダイハツ三重
 大日本印刷株式会社
 MRT株式会社
 ショッピングリハビリカンパニー
 株式会社オリエンタルコンサルタンツ

※民間企業は公募等により広く募集

■ ビジネスモデル(費用分担等) ※応募事業に関連のない場合は記載しなくても良い(詳細は別紙2参照)

- 持続可能なまちづくりに向けいなべ市、地域等の企業等が連携し都市OSの構築・運用を通じて自立するモデル。多様なサービス提供により様々な収入を確保し自立した運営を目指す。



① 都市OSの整備・運営はいなべ市、他都市、企業等と連携
 ➢ 都市OSはコスト等も含め、将来的な整備・運営主体を検討。

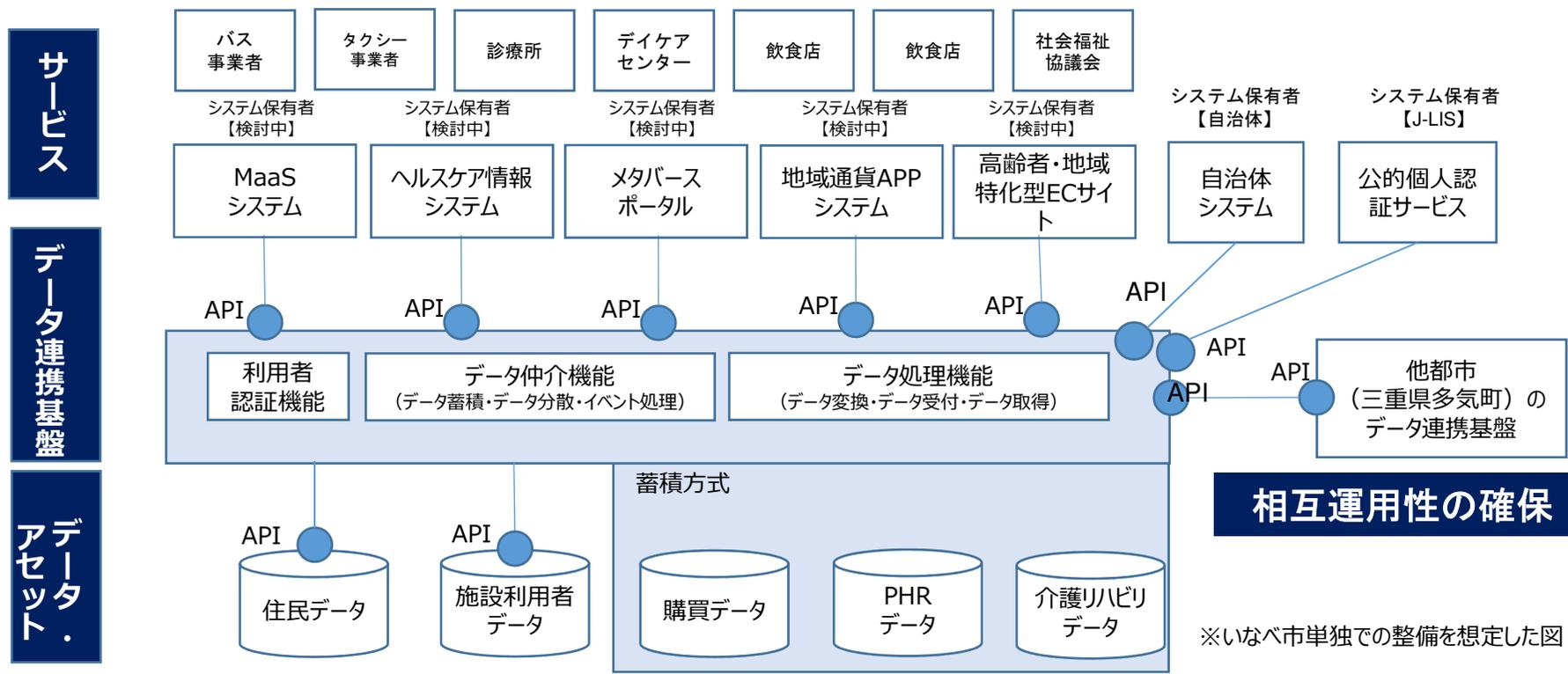
③ 多くの関係者からの収入により持続可能な実施体制を構築
 ➢ 商業施設やECサイト等の関係者から売り上げに応じ利用料を徴収する仕組みを検討し、持続可能な実施体制を構築。

② ディサービス施設が拠点となり高齢者へ多様なサービスを提供
 ➢ 介護以外の買い物等も含めサービス提供し、利用料を収集。

④ 実フィールドとデジタルをつなぐコンテンツ作り
 ➢ 実フィールドとデジタルをつなぎ、地域の収益獲得を推進

■ 都市OS(機能(サービス)、データ、データ連携、共通機能)

- 本取組を実現するためには、都市OS・データ連携基盤の整備は必須と認識。
- デジタル庁が用意するデータ仲介機能などを活用し、国が示す仕様に則り構築する。
- いなべ市単独で整備するか、三重県多気町らの取組と連携するか、他県他都市との連携など、整備方法、整備コストなども含め、地域実装協議会にて検討する。



※いなべ市単独での整備を想定した図

構築する都市OSの種類	今後、詳細を検討予定
予定しているベンダー候補	未定
構築(予定)年度	3年度以内を想定。

■ PRポイント

< デジタルを効果的に活用する高齢化社会の実現 >

- 全国的な課題となっている「高齢化社会」に対する地域づくりを目指す。
- 高齢者はデジタルが使えないという発想を取っ払い、高齢者が利用しやすいデジタルを構築し、実フィールドとデジタルを併用したまちづくりを実現。

< 取り組みに着手できる絶好のタイミング >

■ その1: 高齢者拠点の再生(ハード整備)

- いなべ市ふじわらデイサービスセンターは、2000年1月31日の竣工以降、藤原地区の介護の中心施設として介護保険事業創成期の役割を果たし、いなべ市内唯一の社会福祉協議会による介護施設として存在。
- しかし、2050問題等、超高齢化社会の到来等の迫りくる課題に対応し、元気な高齢者からデイサービス利用高齢者まで、幅広い高齢者が集い、弱体化する「地縁、血縁」を補完する「新たな地域力」を育む拠点として再生整備を実施中(2022年度 建物改修設計 2023年度 建物改修工事)。

■ その2: 元気な高齢者に向けた機運向上

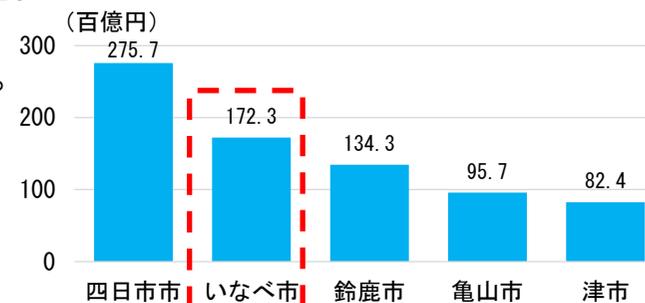
- 2005年度より「元気づくり」事業をいなべ市内で展開。自治会集会所をフィールドに、元気な高齢者がリーダー(元気づくりリーダー)となり、高齢者が集い、元気づくり体操やスポーツによる自発的な運動機能訓練を実施。
- 元気づくり体操は、負荷の無い機能向上運動として独自開発し、市民主導で元気づくりを行う「元気づくりシステム」は特許取得し全国へ波及。

■ その3: 道路交通網の整備による市民生活の充実

- 2024年度の東海環状自動車道(大安～北勢IC)の開通により、三重県第2位の製造品出荷額を誇る市内企業の物流コストの削減が期待され、企業の成長に伴い地域の活性化も期待。
- 愛知県や近隣市町との往来が増長することが期され市民生活の充実も期待されており、様々な取り組みにチャレンジできるチャンスである(元気な高齢者への事業へ注力可能)。



▲ 高速道路の開通予定



出典：2020年工業統計調査（2019年実績）

▲ 市町村別2019年製造品出荷額（上位5位）

11. スケジュール

共通

11

■ 中長期スケジュール

いなべ市ふじわら
デイサービスセンター改修完了

高速道路の開通
(大安IC~北勢IC)

	2022年度				2023年度				2024年度				2025年度				2026年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月																
高齢者IoTプラットフォーム																				
①	←				→				→				→				→			
②	←				→				→				→				→			
移動手段の高度化(AIオンデマンド)																				
③	←				→				→				→				→			
④	←				→				→				→				→			
健康管理																				
⑤	←				→				→				→				→			
⑥	←				→				→				→				→			
⑦									←				→				→			
生活支援																				
⑧	←				→				→				→				→			
⑨	←				→				→				→				→			
⑩									←				→				→			
見守りサービス																				
⑪	←				→				→				→				→			
⑫									←				→				→			

←→ :調査、計画、調整期間

→ :プレ運用-スモールスタート
(第1ステージ)

→ :プレ運用-拡大
(第2ステージ)

→ :本格運用

■ 1. 技術内容(該当分野に○、複数選択可)

AI、IoT、5G、 クラウドコンピューティング、 ビッグデータ	自動運転	ロボット、ドローン、 VR/AR	キャッシュレス、 ブロックチェーン	SIP等の活用
○		○	○	

■ 2. 地域の課題を解決するための未来技術の必要性・有効性

(1) 未来技術の実装により解決したい地域課題の内容

- ・R2年度におけるいなべ市の人口約45,000人のうち、4人に1人が高齢者であり、3人で1人の高齢者を支えているが、R12年度には1.8人で1人の高齢者を支えなければならない時代が来ると予想される。
- ・高齢者を見守る人員が確保できている今、未来技術、デジタルを活用した、健康で元気な高齢者づくり施策、高齢者を見守るネットワークの構築を行う必要がある。
- ・更に、いなべ市は市域が広く、昔ながらの集落が点在しているため、公共交通の便はいいとは言えず、自家用車に頼った移動が中心であったが、今後、高齢者の運転免許返納後の移動手段の確保など、健康や生活を支える移動手段の確保に向けた取組が必要である。
- ・これらの取組により高齢者の未病、予防、介護予防を促進し将来的な医療や介護などの保険給付抑制につなげていく。

(2) 課題を引き起こしている要因

- ・いなべ市に住む高齢者は、子供が独立するなど、一軒家に一人暮らしという例も多い。高齢者世帯数は約2000世帯あり、10世帯に1世帯が高齢世帯である。更に、今後、高齢世帯は増加し、見守りが必要となる高齢者が急激に増加することが予想される。
- ・高齢者が一人で暮らすなどの環境のため、PCやスマートフォンなどをはじめとするデジタル機器を持っていない、使ったことがない、デジタルを利用できる環境がないという状況である。
- ・上記の環境もあり、各種オンラインシステム利用が推進しない要因の一つに、利用者側の「不慣れ」「抵抗感」がある。

(3) 課題解決のため、未来技術の実装により実現しようとする事業・サービスの概要

<コンセプト>

健康で元気な高齢者！！誰一人取り残されないデジタル社会の実現
 ～高齢者が自然とデジタルを活用できる環境の構築～

高齢者視点(高齢者IoTプラットフォーム)
 IT弱者になりがちな高齢者が家庭内で取り組めないオンライン利用(健康相談、診療、買物等)を気軽に立ち寄れる施設で利用することで、IoT修練により在宅生活の充実を図る。

共通D(顔認証)

移動手段の高度化(AIオンデマンド)

- 1ST: AIオンデマンド、乗り合い送迎など、既存公共交通の活用も含め、移動サービスの効率化を検討
- 2ND: ユニバーサルMaaSの構築

高齢者の健康管理

- 1ST: 体組成計、フレイル健診等を用いて、定期的に健康状態を収集
- 2ND: 適宜、オンライン診療・健康相談を実施
- 3RD: メタバースを活用したクリニック・運動支援

生活支援

- 1ST: 周辺施設で運動を兼ねた買い物支援(専用カートで歩行を支援)
- 2ND: 専用ECサイト、デジタル通貨などで地元商店からの買い物を支援
- 3RD: バーチャル商店街で買い物

見守りサービス

- 1ST: 通信技術を活用した安否確認
- 2ND: GPS機能による位置情報確認、医療情報等の共有

■ 3. 事業により期待される効果・地域の目指す将来像との関連性

<期待される効果：住んでよいいなべ市の創出>

- ・本事業により、高齢者の健康診断の受診率を向上させることで、未病、予防、介護予防を促進し、将来的な医療や介護などの保険給付抑制が期待される。また、気軽に楽しめる買い物機会や外出機会・手段を創出することで、高齢者が生きがいを持てる環境を構築し、心の健康づくりも期待される。
- ・さらに、地域が高齢者を見守れるネットワークを構築することで、誰もが安心して住み続けたいと思える地域づくりが期待される。

<地域の目指す将来像との関連性>

- ・実フィールドとデジタルを併用した「健康管理」「生活支援」「移動手段の高度化」「見守りサービス」を提供することで、誰もが高齢者になっても健康で元気で安心して暮らせるいなべ市の将来像を目指す。
- ・また、高齢者IoTプラットフォーム(高齢者拠点)でデジタルに触れる機会を増やし、高齢者が自然にデジタルを利活用できる環境を創出することで、地域の高齢者が自宅等でも継続的に活用できることが期待される。

■ 4. 未来技術の社会実装に関するこれまでの取組

<正しい服薬に向けた取り組み>

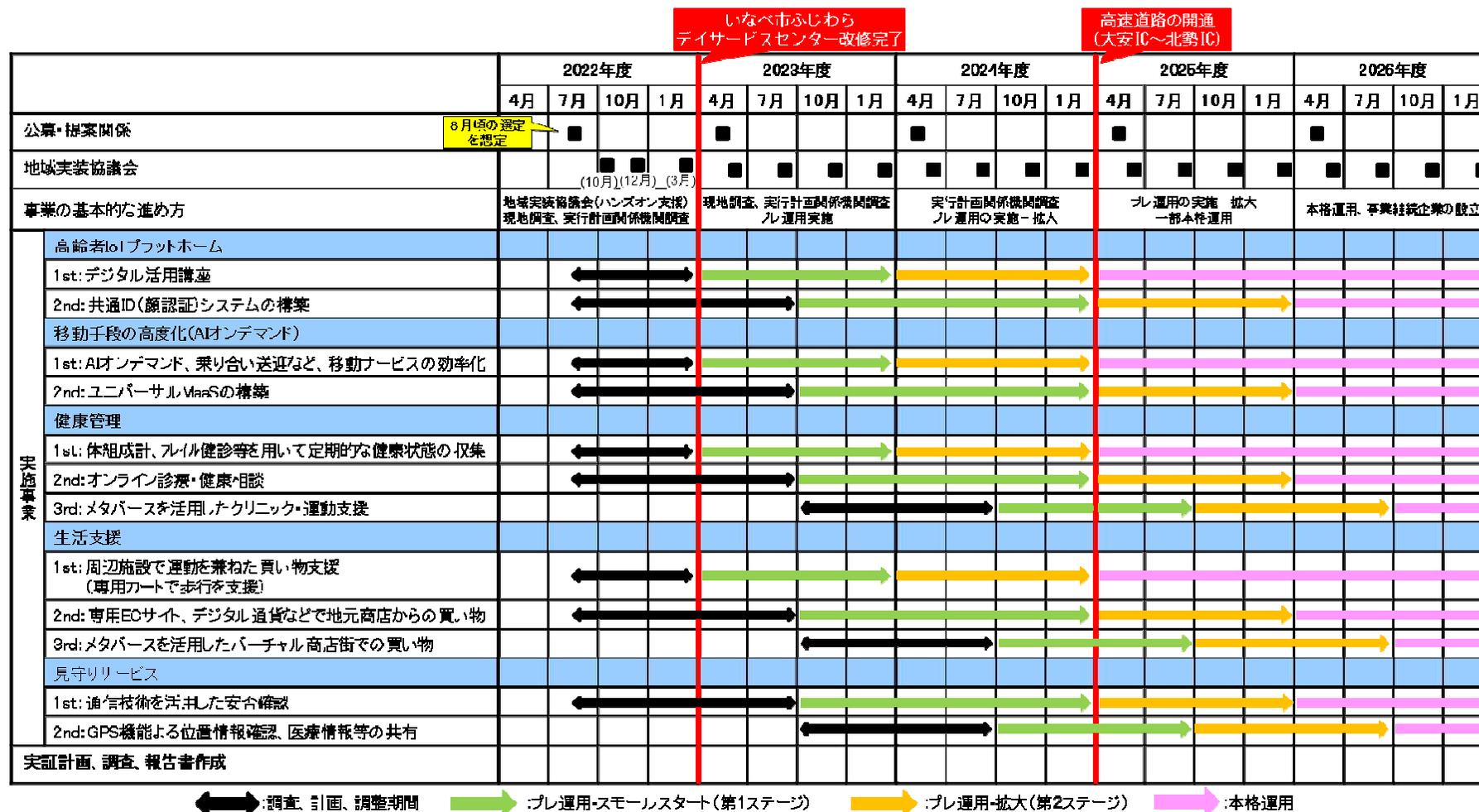
- ・2022年3月に、株式会社インファーマシーズと「地域包括ケアシステム及び地域共生社会の推進にかかる連携協定」を締結し、多剤服薬、重複服薬をテーマとした議論を開始するとともに、高齢者の「正しい時間に正しく服薬できる」ようなITツールの開発に向けた連携を開始する。

<食・運動による健康づくりに向けた取り組み>

- ・2022年4月に中北薬品株式会社と「地域包括ケアの推進にかかる連携協定」を締結し、管理栄養士による健康管理、観察や高齢者向けのレシピ開発を近隣大学等(鈴鹿医療科学大学や四日市看護大学)とのコラボレーションを検討している。
- ・2022度に「健康アプリ」を導入し、歩数に応じたポイント付与、ウォーキング写真館、年齢や体力状況に合わせた市内散策コースの提案など、市民の健康意識を醸成させる。

■ 5. 本格実装に至るまでの事業内容・実施計画(2026年度まで)

- ・2022年度に予定している「いなべ市ふじわらディサービスセンター改修」後に、一部がプレ運用できるよう取り組みを展開する。
- ・さらに、2024年度の高速道路の開通時期に、一部本格運用を実施し、モデル都市の形成を目指す。



■ 6. 事業の創造性

<「高齢者はデジタルが利活用できない」という考え方からの脱却>

- ・今後全国的に高齢化社会を迎える中、デジタル技術を活用するためには、高齢者が自然とデジタルを利活用できる仕組みが重要であり、これまでの「高齢者はデジタルを利活用できない」という考え方から脱却を目指す。
- ・高齢者が自然とデジタルを利活用できるよう、通いの場「高齢者拠点」を「高齢者IoTプラットフォーム」と位置づけ、健康管理や、生活支援を通じて、デジタルを活用できるようになるための講習を行う。



■ 7. 横展開の可能性

<STEP1：他のサービスセンターへの横展開>

- ・いなべ市全域において高齢化が進む中、本事業でモデル的に実施した「いなべ市ふじわらサービスセンター」の取り組みをいなべ市内の他のサービスセンターへの横展開を図り、いなべ市全域において、「健康で元気な高齢者！！誰一人取り残されないデジタル社会の実現」を目指す。

<STEP2：三重県内の他の市町等への横展開>

- ・高齢化社会の課題は、三重県内の他の市町及び全国的にも同様の課題である。そのため、いなべ市でのモデル事業を三重県内の他の市町へ横展開することで、三重県内全域において、「健康で元気な高齢者！！誰一人取り残されないデジタル社会の実現」を目指すことが可能である。

▼いなべ市内の他のサービスセンター



■ 8. 支援を必要とする省庁及びその理由

支援を必要とする省庁及びその理由(2つ以上に○を付けてください。)					
内閣府・内閣官房	デジタル庁	警察庁	金融庁	総務省	文部科学省
○					
厚生労働省	農林水産省	経済産業省	国土交通省	環境省	その他
○		○	○		
省庁名	理由				
内閣府・内閣官房	<ul style="list-style-type: none"> ・社会実装に向けた現地支援及び省庁間の調整 ・財政面の支援(地方創生推進交付金等による各種交付金・補助金の支援) 				
厚生労働省	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン診療、PHRの導入の支援 				
経済産業省	<ul style="list-style-type: none"> ・MaaSに関する支援 				
国土交通省	<ul style="list-style-type: none"> ・AIデマンドタクシーの社会実装に向けた技術支援、財政面の支援 				

活用している又は活用を想定している国の事業(スマートシティ関連事業以外の事業)がある場合は記載してください。 (令和4年度未来技術社会実装事業の募集について(記者発表資料)の添付資料1及び添付資料2などをご参照ください。)	
省庁名	事業名

提案タイトル	健康で元気な高齢者！！誰一人取り残されないデジタル社会の実現 ～高齢者が自然とデジタルを活用できる環境の構築～
提案者	活用技術
三重県いなべ市	AI、IoT、ビッグデータ、VR/AR、キャッシュレス

背景・課題 ※提案事業の目指す将来像、解決すべき課題をそれぞれ2行程度で簡潔に記載すること。

目指す将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が自然とデジタルを活用し、データを活用する生活環境の構築。 ・未来技術を活用し、健康で元気な高齢者づくりを展開。将来的な保険給付抑制社会の実現。
解決すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いなべ市の高齢化率は約27%と4人に1人が高齢者であり、今後ますます高齢化が進行することが予想される。 ・今後、フレイル、プレフレイルを含む高齢者が健康で元気に外出できる地域、また地域が見守れる環境の創出が必要。 <p>→介護予防の実現(要介護状態の発生をできる限り防ぐ)等を目指す。</p>

実装を目指す主な事業内容

○事業: 移動手段の高度化(AIオンデマンド)

活用技術	事業概要
AI ビッグデータ	<ul style="list-style-type: none"> ・AIオンデマンドタクシーや乗り合い送迎による移動手段の効率化 ・ユニバーサルMaaSの構築による高齢者が気軽に利用できる交通手段の確保

○事業: 高齢者の健康管理

活用技術	事業概要
AI、IoT、VR/AR、	<ul style="list-style-type: none"> ・体組成計を活用したPHRの推進、オンライン診療 ・メタバースを活用したクリニック・運動支援 ・顔認証を活用した共通IDによるデータ連携

○事業: 高齢者の生活支援

活用技術	事業概要
AI、IoT、VR/AR、 キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> ・運動兼買い物、ECサイト、デジタル通貨 ・メタバースを活用したバーチャル商店街で買い物

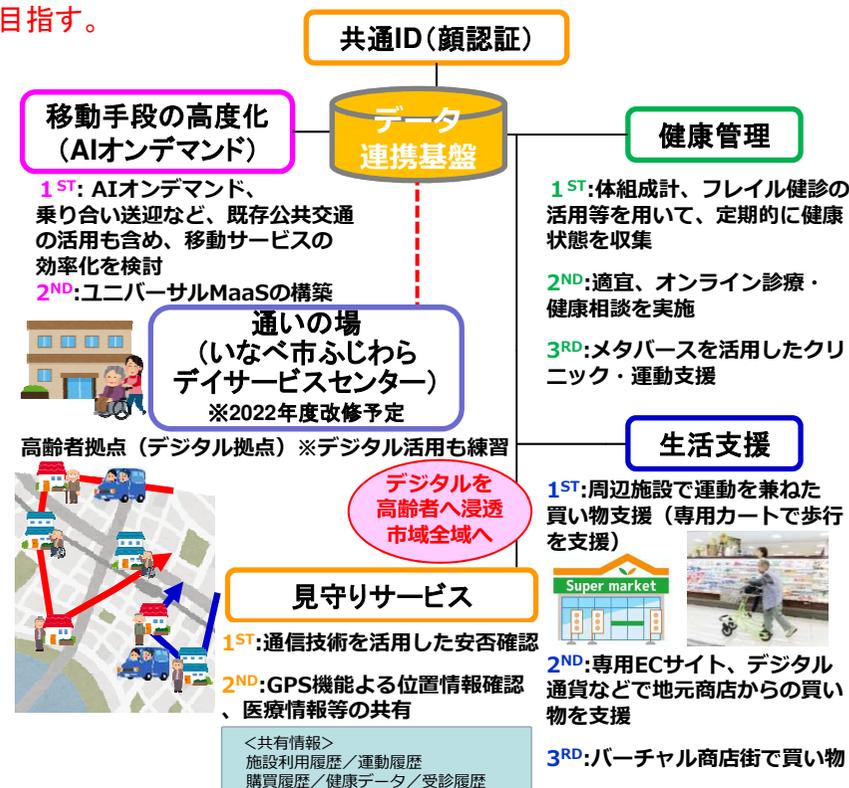


図 事業内容の全体像